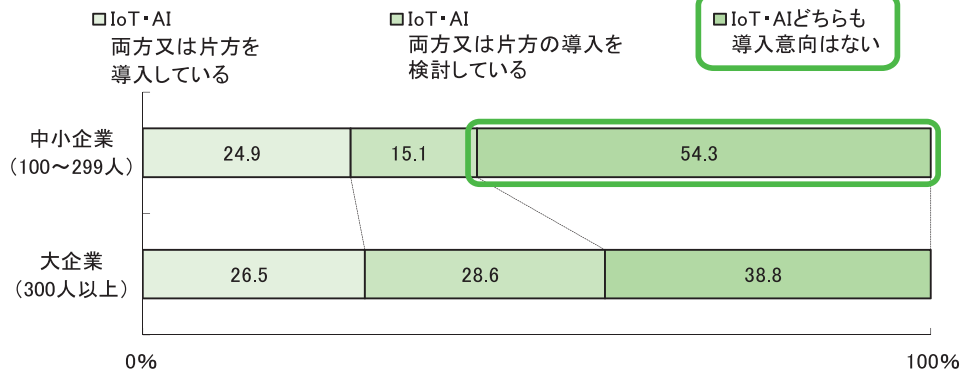


図4 従業員規模別に見た、IoT・AIの導入状況(2017年)

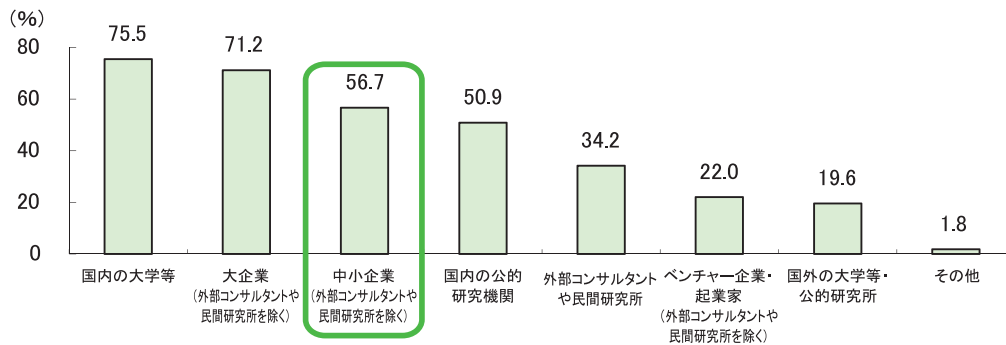


資料:総務省「平成29年通信利用動向調査」

5. 中小企業は大企業にとって魅力的な連携相手。研究開発の促進も重要。

- ・顧客ニーズの多様化や変化のスピードが早まる中、自社だけで革新的な商品やサービスを開発することは困難となり、オープン・イノベーションの必要性が高まっている。
- ・小回りの効く中小企業は、大企業からも研究開発の連携相手として期待されている。大企業の連携を含め、中小企業の研究開発への取組を促進することが必要。

図5 大企業が期待する研究開発の連携相手

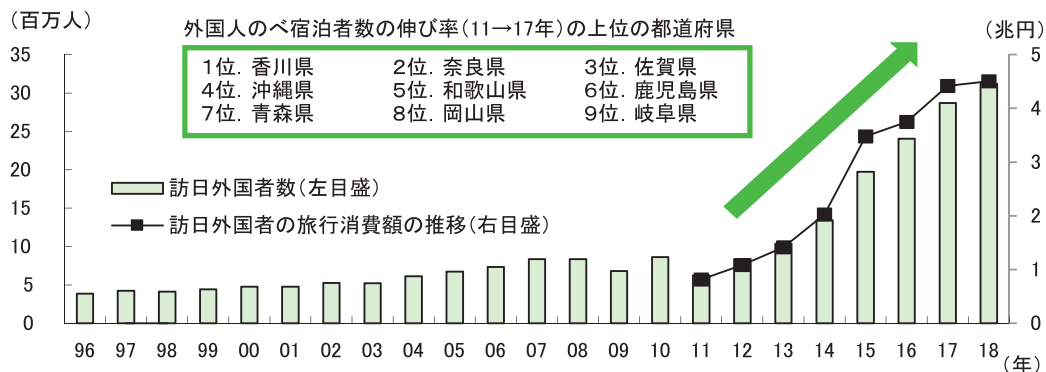


資料:文部科学省 科学技術・学術政策研究所「民間企業の研究開発に関する調査報告 2017年」(2018年5月)

6. 地方の中小企業こそ、域外・海外需要の取り込みが必要であり、それは多くの地域で可能。

- ・サービス業を中心に、人口密度が低い地域に立地する事業者ほど、生産性が低い傾向。人口減少が進む地方では、域外の需要を如何に取り込むかが課題。
- ・訪日外国人が急増する中、外国人のニーズに応じた商品・サービスを提供し、海外需要を取り込むことで、地方でも高い成長を実現することが可能。

図6 訪日外国人数及び旅行消費額の推移



資料:日本政府観光局「訪日外客数の動向」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」